

2014/07/20 礼拝メッセージ 近藤修司 牧師

主 題：あなたの助け主

聖書箇所：ヨハネの福音書 14章16節

子どもたちが賛美する歌の中にこんな歌詞があります。「♪できない、できないなんて言わないで、きっとできると叫ぼう」と。信仰のことを歌っています。私たち主イエス・キリストによって救われたクリスチャンたちは、まさに、このような信仰をもって生きることができる者になりました。聖書を通して主は私たちに「この命令に従いなさい」と主の命令を教えています。主はみこころを示して、このみこころに従っていきなさいとその実践を私たちに命じます。その時に私たちが避けなければならないことは「自分にはできない、自分には無理だ。」という不信仰です。それを捨てる必要があります。私たち信仰者は「神にあってできる」という信仰を持つ者です。そして、神はあなたに「わたしがあなたに命じることは実践できる」と教えてくださっています。何度でも繰り返さなければいけません。この真理をしっかりと覚える必要があります。しっかりと心に刻む必要があります。この真理にしっかりと従って生きていく必要があります。それは、私たちはみことばを実践することが出来るということです。神の言われた命令を神は「あなたは実践できる」と言われています。

私たちはこの神の約束に立って生きることが必要です。これまで私たちは、特に、神の恵みによって私たちクリスチャンは生まれ変わったということを手で学んで来ました。私たちは新しく造り変えられた、「古いものは過ぎ去って、すべてが新しくなりました。」（Ⅱコリント5：17）と、新しい人生を歩み始める者になった、それがクリスチャンです、皆さん。

思い出して頂きたいのは、神があなたを罪から救い出してくださった、永遠の地獄から救い出してくださった、その理由は何だったのか？ということです。神があなたを新しく造り変えてくださったその目的は何だったのか？思い出してください。それはあなたを造ってくださり、あなたを罪から救ってくださった創造主なる真の神の栄光を現わすためです。そのために人間は造られたのです。しかし、人間はその目的に従っていくことを拒んだゆえに、私たちは永遠の滅びを受ける運命になりました。しかし、神はあなたをその罪から救い出してくださることによって、本来の目的に沿って生きる者として生まれ変わらせてくださったのです。あなたは神の栄光を現わすために神によって造り変えられた者です。それがクリスチャンです。

そして、感謝なことに、神の働きはもうあなたのうちにすでに始まっていると聖書は教えています。あなたを主イエス・キリストに似た者に変えていくという働きです。この働きはもうあなたのうちに始まっています。今話したことを、主ご自身がヨハネの福音書15章の中に見ることができます。15：8をご覧ください。「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。」この8節を私訳＝原語から直接訳すると「このことによってわたしの父は栄光をお受けになるのです。それはあなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子であることを示すことによってです。」と。実は、イエスがここで言われたことは、多くの実を結ぶことによってわたしの弟子、つまり、クリスチャンになるということではありません。「多くの実を結ぶ」というのは、あなたがすでにクリスチャンであることの証拠であると教えているのです。この「弟子となることによって」という動詞の中に、「～であることを示す」という意味があるのです。ですから、皆さんが見ている新改訳聖書では、この箇所の欄外の注に、異本として「そうしてわたしの弟子であることを証明することによって」という訳がされています。そのような訳ができるからです。

イエスがここで「あなたが素晴らしい生き方をすることによって、わたしの弟子、救いに与る。」と言われたわけではありません。そのような良い行ないは、もうすでに、あなたが救われていることの証拠であるということを行っているのです。ですから、「多くの実を結ぶ」と主は言われました。別の言い方をすると、あなたがよりキリストに似た者に変えられていくということです。パウロはガラテヤ人への手紙5章で「御霊の実」のことを記しています。九つの実が記されていますが、それは九つが別々の実ではなくて一つの実です。それぞれみな重なっているからです。そして、その実が完璧に実った状態、完全な状態にあるお方、それがイエスです。愛においても喜びにおいても、その九つのリストのすべてにおいて完璧な方がイエスです。だから、クリスチャンであるあなたのうちに実が与えられており、その実が実るということは、すべての徳においてあなたが成長していくということです。だから、「多くの実を結ぶ」ということも同じです。あなたが主イエス・キリストに似た者に変えられていくということです。

このヨハネ15：8でイエスが言われることは、あなたが多くの実を結び、あなたがその実において成長していく、よりキリストに似た者に変えられていく、それこそあなたが弟子であることの証拠なのだということです。なぜなら、あなたを変えていくという働きはもうクリスチャンであるあなたのうちに始まっているからです。イエスを信じたその瞬間に、神はその働きを始めてくださったのです。それが救いだということです。私たちは数ある宗教の中からキリスト教を選んだということではありません。神があなたを救ってくださったなら、あなたを変えていくという働きはもうすでにあなたのうちに始まったのです。それが神が言われる「救い」です。私たちはこれまでに、救われた私たちの具体的な生き方を見て来ました。新しく生まれ変わった者たちはどのように生きるのか？を見て来ました。

今日もヨハネ14章にあるイエスのみことばから、私たちは新しい生き方、すなわち、救われた者の生き方を見ていきますが、新しい生き方を実践するためのカギを見ます。具体的にいろいろな働きを見てきましたが、そのような新しい働きをあなた自身が実践していくためのカギです。そのカギを主イエス・キリストご自身の歩みが明らかにしています。願わくは、この学びを通して、イエスが歩まれたようにあなたも歩み始め、救われた者としてそれにふさわしい歩みをあなたが歩み続けることによって、主の栄光を現わし続けていただきたいのです。救われたその目的をしっかりと果たす信仰者として歩んで頂きたいと願うのです。

☆新しく生きていくためのカギ

ヨハネ14：16「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」

A. 「助け主」の必要性 16節

この16節が教えることは「助け主の必要性」です。助け主が必要だということです。「わたしは父にお願いします」とあります。これは主イエス・キリストの祈りです。主イエス・キリスト自身が父なる神にお願いをしているのです。何を願われたのか？「助け主を送ってください」です。だれのために？信者のためにです。クリスチャンのため、あなたのためにです。この16節は派遣される「助け主」に関して二つのことを教えます。イエスが求めた「助け主」に関する二つのことが記されています。それは、この派遣される「助け主」がいったいだれなのか？助け主の正体が記されています。そして、「助け主」が派遣されるその目的が記されています。何のために助け主が送られて来るのか？です。

1. 助け主の正体 : もうひとりの助け主

「父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。」と、「もうひとりの助け主」とありますが、実は、「もうひとり」というのが非常に大切なのです。イエスはこのようなことを父なる神にお願いなさったのです。でも、イエスだけでは不十分だからだれかイエスの助けが必要だと、そんなことを教えているのではありません。実は、ここで語られている「もうひとり」とは送られて来る「助け主」の神性を表わしているのです。つまり、この方が神であることを教えるのです。なぜそう言い切れるのか？実は、ここで使われているギリシャ語です。「もうひとりの」と言うとき二つのギリシャ語が使われます。「アロス」－ 数的な違いを意味し、そして、同じ性質の別のものを表わします。

「ヘテロス」－ これは質の違いを意味し、異なった性質のものを表わします。

ここでは、「アロス」が使われています。もし、イエスが「もうひとりの助け主」＝「ヘテロス」を使っていたなら、ご自分と性質において全く違う別の人を送りますと言われたことになります。「ヘテロス」ではなく「アロス」というギリシャ語を使ったということは、イエスは「もうひとりの助け主はわたしと本質において全く同じ方だ」と言われたのです。主イエス・キリストが神であるゆえに、イエスは「わたしと同じ神を送るようお願いします」ということがここで語られているのです。ですから、この「もうひとりの」ということばが意味していることは、送られて来る助け主である聖霊なる神が「神である」ということです。

2. 助け主の派遣の目的

この「助け主」ということばはここでは名詞形ですが、その動詞形を見ると、二つのことばからできています。「パラクレオ」というギリシャ語で、「パラ」は「傍らに」という意味で、「クレオ」は「呼ぶ」ということです。そこで「パラクレオ」とは「自分の傍らに呼ぶ」ということです。その目的は「助けるため」にです。イエスが父なる神に「助け主をお願いします」と言ったときに、イエスは「あなたの傍らにあなたを助けるために来てくださる方」をお願いしているのです。新改訳聖書のこの部分の欄外には「パラクレオス」－援助のためにそばに呼ばれた者、とりなしてくれる人－と記されています。あなたを助けるためにあなたのそばに呼ばれた人、それを表わすことばがここで使われているのです。

神はあなたに「助け主を与える」という約束をくださった、そのことがここに記されています。イエスがそのことを求められ、父なる神はそのことを約束されたのです。では、何のために神はその約束をされたのでしょうか？何のために私たちに助け主が与えられるのでしょうか？それは、私たちが生かされている目的を果たすためにです。救われた目的を果たすためにです。罪から救い出された私たち、神の栄光のために生きる者とされた私たちが、その目的を果たすために神はあなたに助け主を送ってくださった、また、送ってくださるといのがここで約束されていることです。あなたが日々イエス・キリストに似た者に変えられていくために、そのための助け主です。その方を与えると約束してくださったのです。そのためにこの助け主はときにあなたを慰めてくれます。なぜなら、この「パラクレトス」、また、「パラクレオ」ということばは、「助ける」だけでなく「慰め主、とりなしをなす者」という意味があるからです。ゆえに、この方が来ることによって、この方はあなたを慰め、ときにあなたを励まし、また、道を誤った時にあなたを責め戒めて、正しい道を歩むようにと導いてくださる、そのような方であるというのです。

あなたの中で描けますか？神が約束された「助け主」は、あなたが正しい方向にしっかり歩いていけるように、あなたが日々成長し、キリストに似た者に変えられ、神の栄光を現わすためにあなたを助けてくれる、そのような方があなたに与えられると、その約束がここに記されているのです。

3. 助け主の約束 : ともにいてくださる

助け主が与えられる約束だけでなく、16節の続きには「その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」とあり、「ともにいてくださる」と言います。なぜ、イエスはここでこのようなことをいわれたのか？思い出してください。14章の初めに、主イエス・キリストは弟子たちに「これから私は十字架で死んで、そして、よみがえる」ということを言われました。それを聞いた弟子たちは「イエスさま、どこに行かれるのですか？なぜ、私たちもいっしょに行けないのですか？」と言って、イエスと離ればなれになることを彼らは非常に恐れました。14:1「あなたがたは心を騒がしてはなりません。」と、イエスは動揺している弟子たちに対して「心配しなくていい。私は確かに去っていくけれども、私はもうひとりの神である助け主をあなたがたに与えます。その方はずっとあなたを離れることなく、あなたとともにいてくださる。」と、そのことを約束なさったのです。

皆さん、確かに、その約束は守られています。この「助け主＝パラクレトス」というギリシャ語は、実は、新約聖書の中に5回出て来ます。そのうちの4箇所は「助け主」と訳されています。すべて、ヨハネの福音書です。今見ている14:16と、

14:26「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

15:26「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。」

16:7「しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。」

です。でも、同じヨハネが記したヨハネの手紙第一2:1では「助け主」と訳されていません。そこは「弁護する方」と訳しています。「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。」、この「弁護する方」が「助け主」と同じことばです。

そうすると、このようなことが約束され、こういうことが今あなたのために為されているのです。最初の助け主であるイエス・キリストは確かに、今から約二千年前、あなたの罪を負って十字架で死に、よみがえられました。そして、天に凱旋していかれ、今は父なる神の右の座に座しておられると教えられています。しかし、約束されたもうひとりの助け主がこの地上に来られて、そして、その方が救いに与ったあなたとともにいてくださるとい、その約束はずでにあなたのうちに果たされました。ペンテコステの時に聖霊がこの地上に下り、それ以降、イエスを信じたその時にあなたのうちに聖霊なる神が与えられています。だから、クリスチャンである皆さんは、聖霊なる神を頂いています。その神はあなたから離れることがない、あなたといつともともにいてくださるといふのです。

では、最初の助け主であるイエスはどうなったのでしょうか？イエスは天に凱旋していかれたと言いました。天においてイエスは弁護して下さっています。あなたが罪を犯す度に、黙示録が教えるように、サタンはあなたを神の前で訴えています。その時に、イエスはあなたに代わって父なる神の前で弁護して下さっているのです。このようなことが今まさに、地上において天において為されているのです。

あなたとともにおられる助け主、そして、天に上がられたこの助け主は、あなたのために、あなたの罪の弁護をしてくださるのです。また、みことばは、この助け主イエスは、あなたのために祈ってくださると言います。

信仰者の皆さん！私たちはものすごい祝福を神から頂いているのです。天国に行ける約束を頂いた、すばらしい約束です。でも、この地上にいても天国民として確かに生きていくことができます。聖霊があなたとともにいてくださり、聖霊は休むことがない、眠ることもないのです。いつもあなたとともにいてくださり、あなたのことをだれよりも分かっている助け主です。あなたを助けるためにいてくださる。そして、天において最初の助け主イエスはずっとあなたのために弁護し、あなたのために祈ってくださっているのです。

私たち信仰者が覚えなければいけないことは、こんな祝福の中に神はあなたを招いてくださったということです。この祝福はクリスチャンであるあなたに対する神からの約束です。だから、少なくとも、その約束を覚える時に、私たちは確かに一人ぼっちかもしれません、実質的に。でも、私たち信仰者は「一人ぼっちだ」とは言わないのです。なぜなら、神がともにいてくださるからです。確かに、世の中には一人ぼっちの人がたくさんいます。でも、感謝なことに「あなたは違う」と神は言われるのです。「わたしがあなたとともにいるではないか！」と。ある人は精神面で孤独を感じているかもしれません。でも、みことばは「あなたは決して一人ではない」と言います。このヨハネ14：18でイエスはこのように言われています。「わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。」と。わたしはあなたを捨ててどこにも行かない、ずっとあなたとともにいるからと、そのような祝福に私たちは与っているのです。

最初に見たように、神が命じることを私たちが実践できるのはどうしてか？神が私たちとともにいてくださるからです。助け主なる神がともにいてくださるからです。思い出しませんか？私たちがよく歌う賛美に「♪主がついていけば恐くはないと聖書のうちに書いてあります。…主は私を、主は私を、主は私を愛してくださる。」と。私たちはこんな祝福に与ったのです。私たちは神がいなければ恐れてしかるべき者です。不安でしかるべき者です。でも、救いに与った私たちはどんな時でもこの神がともにいてくださるのです。先の賛美は聖歌の歌詞を読みましたが、讚美歌で覚えておられる方が多いでしょう。「♪主、われを愛す。主は強ければ、われ弱くとも恐れはあらず。」と。信仰者はそんな生き方ができるのです。なぜなら、神が助けてくださるからです。

私たちはこの14：16のみことばを読む時に気付いていなかったかもしれません。でも、神はちゃんと気付いておられて、あなたには助けが必要だとして、助け主を約束してくださったのです。

B. 「助け主」によって生きる

次に私たちが学びたいことは「助け主によって生きる」ということです。助け主に頼りながら生きるということです。「助け主が与えられた」と聞いても、その助けを頂きながら生きていなければ、この祝福を実際に味わうことはできません。どんなに大きな祝福を頂いているのかは実感できません。もしかすると、私たちの信仰の問題はそこにあるのかもしれません。いろんなことを聞いていろんなことを知っているけれども、実際にそれを自分の生活に活かしたことがない、体験していないのです。私たちは「本当に神がそばにいてくださる。本当に神が私の助けた。」と、そのことを実感しながら今日生きることができるのです。そのような人生をあなたが生きること、それを神は望んでいるのです、ですから、そのために私たちはこの約束を知って、具体的にどうしていけばいいのかを知らなければいけないのです。

1. 助け主の必要を認める

神はあなたに助け主が必要であることを知っておられましたが、問題は、あなたがそのことを知っているかどうかです。まず、私には助けが必要だということを認めることです。私たちがいかに弱い者であるかということに気付かなければいけないのです。私たちは自分で自分の寿命をコントロールすることはできません。神が定められた寿命を私たちは変えることはできません。自分で自分の心を変えすることもできません。変えたいとどんなに願っても自分で自分の心を変えすることはできないのです。我々は自分で自分を罪から救い出すことはできないのです。罪から離れようと思っても、悲しいことに、その罪から離れることができないのです。自分で神に喜ばれる生き方をすることができないのです。どんなに強く願っても…。経験あるでしょう？自分で神の栄光を現わすことはできないのです。神の栄光を現わすために救われたと何度聞いても、悲しいことに、私たちは自分の力で神の栄光を現わすことはできないのです。だから、神の助けが必要だと教えているのです。だから、私たちが気付かなければいけないのは、「悲しいことに、私は救いを自分の力で得ることができないだけでなく、救われた後も、ク

リスチャンとして生きていくその信仰生活においても、神の助けがなければだめだ。」ということです。

あのパウロが自分自身の弱さをよく知った上で次のように言っています。Ⅱコリント 11 : 30 「もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇ります。」と。また、同じⅡコリントの 12 : 5 では「このような人について私は誇るのです。しかし、私自身については、自分の弱さ以外には誇りません。」と。彼が誇ったのは自分の弱さでした。救われる前の彼は自分の家系、身分、教育、財産というこの世的なものを誇っていました。でも、救いに与ったパウロが誇ったのは、自分の信仰のわざ、自分の働きなどではありません。彼が誇ったのは自分の弱さです。感謝なことに、神はあなたや私の弱さに同情してくださる方です。感謝だと思いませんか？自分の弱さを一生懸命説明する必要はないのです。ヘブル書にあるように「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」（ヘブル 4 : 15）、私たちの大祭司は私たちの弱さを分かってくださるし、愚かさも分かってくださるのです。そして、神はあなたに必要な助けをくださるのです。ですから、神に働いて頂くために私たちがしなければいけないことは、まず、自分の弱さに気付くことです。自分の弱さを知っているものだけが主に助けを求めるからです。そして、助けを求める者だけが、主の栄光のために用いられるのです。

覚えていますか？パウロは自分の「とげ」を除いてくださるようにと三度神の前に祈りました。神はパウロに次のように言われました。Ⅱコリント 12 : 9 「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」と。神の御力というのは、自分の弱さを知っている者のうちに現わされるということです。というのは、私たちの問題は、力である神に頼って生きようとしません。信仰歴が何年であろうと、私たちが陥ってしまうのは自分の力で生きようとするからです。自分の力で神に喜ばれる信仰者になろうとすることです。自分の力で神が命じている信仰者になろうとすることです。だから、失敗に失敗を繰り返すのです。そのように生きなさいと神は教えてはしません。私たち信仰者は、自分は神が望んでいること、神の命じていることを実践できない者だということに気付いて、それを可能にしてくださる助け主である神に助けを求めるのです。パウロはそうにして生きたし、パウロ自身に神はそうにお答えになったのです。

「わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる」と。私たちの力が前面に出て、私たちの力でやろうとする時には、神の力が現わされないと言うのです。

だから皆さん、私たちが信仰の成長とともに、自分は本当に弱い愚かな者だと気付くことは本当に感謝なことです。それに気付く時に「神さま、助けてください！」と神に助けを求めるのです。その時に神のみわざが成され、神の栄光が現わされるのです。ですから、「頑張ります！」と言うのは人間的には恰好いかもしれませんが、悲しいことに、信仰者としての生き方としては恰好悪いのです。もっと言うなら、それは間違っている、罪なのです。私たちが覚えなければいけないのは、神の助けがいるということです。そして、神の助けは与えられるのです。「主よ、どうぞ、あなたが教えてくださったみこころに従っていきたくて助けてください。あなたが命じておられることを実践していきたくて助けてください。」と言うのです。そうして神に働いていただく機会を我々は提供するのです。その時に神が働くのです。「頑張ります」と言うのは、その機会を神に与えないだけでなく、「自分でやります！」と言っているのです。だから、神が働けないのです。

イエスが私たちに教えてくださっていること、そして、それを学んだ信仰の勇者たちが生きた生き様を見てください。彼らは自分たちの弱さを誇り、自分の助け手である神に助けを求めたのです。パウロは「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」（ピリピ 4 : 13）と言いました。それまでのパウロだったら「私はどんなことでもできます！」と言ったでしょう。でも、教えられたのです。「私は救われているから神のみこころを行なっていきたいと願っているけれど、それを実践する力は私のうちにはない。」と。でも、備えられた助けによってそのように生きていくことができる。だから、「私は私を強くしてくださる方によって」、この神によって「どんなことでもできるのです。」と言います。私たちは自分の弱さにしっかり目を留めて、自分の弱さを認めることです。神の助けが必要だということに気付くことです。

2. 助けをいただきながら生きる ー助けを与えてくださる : 栄光を現わすために！

どのように生きていけばいいのか？その具体的な四つの例を挙げます。

1) 御霊によって歩みなさい ガラテヤ 5 : 16

ガラテヤ 5 : 16 を見てください。「私は言います。御霊によって歩みなさい。…」と記されています。これは「キリストを模範として生きる」ということです。別の言い方をすれば、すべての点で主イエス

に似た者になりたいと願って生きることです。ですから、御霊によって生きるとは「神さま、私は私のことばにおいても行ないにおいても考えにおいても、すべての点においてあなたに似た者になりたいと願って生きていきたいです。」と、そのような生き方をしなさいと命じているのです。まさにこれは、罪から離れて聖い生き方をしていきなさいということです。なぜですか？この16節からずっと見ていくと、御霊による生き方と肉による生き方が対比されているからです。「御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」と。自分の肉に従っていく生き方と御霊に従っていく生き方、この二つが対比されています。肉に従っていく生き方がいかに汚れたものであるかが19節から記されています。5：19－21「：19 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、：20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、：21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」、対比されているのです。御霊による生き方は肉に従って生きない生き方、つまり、罪から離れた聖い生き方のことです。また、ヨハネ15：2にはこのように書かれています。「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」と。

だから、罪から離れた清い生き方をしようとしている人たちは、このようなことを願いながら生きているのです。それは「私はイエスさまが歩まれたように生きていきたいです。私はすべての点でイエスさまに似た者として歩んでいきたいです。」です。それがガラテヤ5：16で「御霊によって歩みなさい。」とパウロが命じたことなのです。

私たちはまず、私たちが神の助けを頂きながら生きるということ、そのために必要なことは「神さま、私は私の考えもことばも行ないも、イエスさまが歩まれたように私は歩んでいきたいです。」と、そのように願って生きることです。もちろん、そのような歩みを実践するためには、当然、神の助けが必要です。私たちは常に、神の助けを頂きながら生きるのですが、そのために私たちは「主よ、私のすることすべてがイエスさまを模範として、イエスさまに倣って生きる者でありたい。」と願い、そのように生きていくのです。

2) みことばを学んで、みことばが心を支配する コロサイ3：16

私たちが神に喜ばれる栄光を現わす生き方をしていくために必要なことは、神のみことばを正しくしっかり学んで、それをいつも心に蓄えることです。コロサイ3：16のみことばが私たちにそのことを教えています。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」と。もちろん、このことにおいて当然神の助けが必要なのです。「主よ、みことばの真理を教えてください。そして、みことばが私の心を支配するように助けてください。」と、私たちは当然、学びをしなければいけません。そして、それを蓄える努力も必要です。でも、そのプロセスにおいて私たちは神の助けをもらいながらやっていくのです。

3) 主の前に正しいこと、喜ばれることを選択する IIコリント5：10

毎日の生活において、頭にしっかり刻んで、そして、心に刻んで生きていく生き方は、神の前に正しいことを選択するということです。神が喜ばれることが何かを考えそれを選んでいくということです。なぜなら、私たちは間もなく、主イエス・キリストの前に立つからです。IIコリント5：10「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

4) 常に主の臨在とみこころを覚える ルカ12：37

常に、主が私をご覧になっている、そのことを忘れてはいけないと言うのです。ルカ12：37に「帰って来た主人に、目をさましているところを見られるしもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。主人のほうで帯を締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばにいて給仕をしてくれます。」とある通りです。いつ主人が帰って来るか分からない、その時に眠っているような状態ではだめだ、目を覚ましていなさいと言います。

ですから、私たちは神の助けを頂きながら生きていくのです。でも、そのためには私たちが主の模範に倣って歩んでいきたい、そういう思いをしっかりと持って歩んでいくことが必要であり、常に、神のおことばを学んでそのことばを心に蓄えていくことが必要だし、私たちはどんな時でも神が喜ばれることは何かを考えて正しい選択をし続けることが必要だし、そして、常に主の臨在を覚えて歩んでいきなさいと教えるのです。私たちはそのような決心をもって歩んでいくのですが、その歩みの中であって、「主よ、このように歩んでいきたいから助けてください。」と、神の助けを頂きながら歩んでいくので

す。神が望んでいる歩みをするために、それが実践できるようにと神は助けを備えてくださった。だから、私たちはこのように正しい思いをもって歩み続けていく、そのプロセスにおいて神はちゃんと必要な助けを備え続けてくださるのです。皆さん、分かりますか？「この方向で私は生きていきます。主よ、私を助けてください。」と、そのようにして私たちは生きるのです。

2. 助け主によって生きた模範 : 主イエスの完璧な歩みの秘訣

最後に、私たちの最も模範とすべきお方、主イエスがどのように生きられたのかを見ていきます。最初に言いますが、イエスが生きた生き様とは、今話して来たことをイエスご自身が実践されたのです。

1) 聖霊を受けられたイエス

まず、使徒の働き10章を見てください。ここにはペテロがコルネリオの招きに応じてカイザリヤを訪問した時の様子が記されています。ユダヤ人であったペテロが、異邦人コルネリオの家を訪問するというのは大変なことでした。しかし、神の導きによってペテロは彼の家を訪問しました。そして、神がこのコルネリオのうちに働いておられるということを知り、神の為されるみわざにペテロは驚嘆するのですが、そのペテロがこのように言っています。彼はコルネリオの家で多くの人たちに語ったのですが、使徒10:38「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」、ペテロは何を言わんとしたのでしょうか？「神はこの方に聖霊と力を注がれました。」と、イエスに聖霊が注がれた時とはいったいつだったでしょう？主イエス・キリストのバプテスマの時です。そのことはルカの福音書3章に出て来ます。ルカ3:21, 22「さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、:22 聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」と。ペテロはこのときに、イエスが聖霊を受けたということを話したのです。その出来事がいつ起こったのか？今見た通り、聖書の中に、主イエス・キリストがバプテスマをお受けになった時に聖霊が彼の上にとどまったと記されています。

ヨハネ1:32-34をご覧ください。実際に主イエス・キリストにバプテスマを受けたバプテスマのヨハネがその時の様子を次のように語っています。「:32 またヨハネは証言して言った。「御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。」、こうして実際にイエスに水のバプテスマを施したヨハネが「私は天から聖霊が下るのを見た」と、そのように告白しています。なぜ、このようなことが起こったのでしょうか？イエス・キリストの上に聖霊が下ったということは大変意義深いことなのです。そのことについて、この箇所が教えています。二つのことを見てください。

◎なぜ、主イエスがバプテスマを受け、聖霊を受けられたのか？

(1) 主イエスが「約束の救世主」であることの証明

聖霊が下ることによって、この方が約束の救世主であることを明らかにしたというのです。33節「私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方が、」、つまり、神が「私に言われました。『御霊がある方の上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。』と、つまり、バプテスマのヨハネは「このように私は神から示され、私はそれを目の当たりにした」と言うのです。このように聖霊が下れる方、この方こそが待望の救世主、救い主である、私はそれを見たと言うのです。

(2) 主イエスが「神」であることの証明

34節「私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」と、「神の子」ということばをバプテスマのヨハネは使っています。この「神の子」という称号は、「主イエス・キリストと父なる神が本質的に同じである」ということを明らかにすることばなのです。ですから、ヨハネはそのことを福音書の5章、また、10章に明らかにしているのです。つまり、主イエス・キリストは真の神である、父なる神と本質的に同じ神だということをこのヨハネの福音書は明らかにしているのです。

ですから、バプテスマのヨハネがイエスに水によってバプテスマを授けた時に、聖霊が下ったというその出来事が明らかにしたことは、イエスが約束の救世主であるということと、この方が真の神であるということなのです。

さて、そこでわたしたちが疑問に思うのは、なぜ、イエスが、神であられるお方が、聖霊なる神を必要としたか？ということなのです。不思議でしょう？なぜ、神である方が聖霊を必要としたのか？確かに、イエスは完全な神でした。しかし同時に、イエスは完全な人でした。主イエス・キリストは私たちに完全な模範を示してくださったのです。完全に神であられ、そして、完全に人であられたイエスは、私たちに人としての生き方の「模範」を示してくださったのです。その模範に倣って生きると…。

イエス・キリストの生き方は、私たちに次のことを示してくれます。「あなたも実は聖霊なる神の助けが必要だ」ということです。聖霊によって歩まれたイエスの様子を見ましょう。

2) 聖霊によって歩まれた主イエス

(1) 聖霊に満たされながら歩まれた ルカ 4 : 1

ルカ 4 : 1 「さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。」と、「聖霊に満たされたイエスは」とあります。つながりが分かりますね。バプテスマをお受けになって聖霊を頂いたイエスは「聖霊に満たされた」のです。イエスの実際の歩みを見た時に、イエスは聖霊に満たされていました。

(2) 聖霊の導きに従って歩まれた ルカ 4 : 1-2

二つ目は同じ 4 : 1 の続きから 4 : 2 に「そして御霊に導かれて荒野におり、:2 四十日間、悪魔の試みに会われた。その間何も食べず、その時が終わると、空腹を覚えられた。」とあります。聖霊なる神の導きに従っておられました。

(3) 聖霊の力を頂きながら歩まれた ルカ 4 : 14、使徒 1 : 8

三つ目は 4 : 14 「イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。」と、聖霊を頂いたイエスはその聖霊に満たされ、聖霊に導かれ、聖霊の力を帯びてガリラヤに戻っていったと言います。また、使徒の働き 1 : 8 には「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」と書かれています。

ということは、皆さん、私たちの模範であるイエスは、常に聖霊に満たされ、常に聖霊の導きに従い、この聖霊の力によって生きていたのです。人としてイエスはそのように歩まれ、そのように私たちが、いや、あなたが生きると模範を示してくださったのです。

今日、私たちが見て来たのは「新しい生き方のカギ」です。私たちは救われた者として、神の栄光を現わす者として、生まれ変わった私たちはどのように生きていけばいいのか？ その生き方のカギです。それは「聖霊なる神」です。どちらかと言うと、私たちはイエス・キリストと父なる神を覚えて口にしますが、聖霊なる神のことを忘れていませんか？ 私たちは聖霊に頼って生きるよりも、自分の知恵や力に頼っていませんか？ 私たちが神が命じておられる生き方を実践するためには、神の助けによって生きなければいけないのです。もう一度言います。私たちが神の望んでいる生き方をしていくには、神が備えてくれた助けによって生きなければいけないのです。私たちはこの聖霊なる神の助けを頂きながら生きるのです。神の栄光を現わすために何が必要か？ 聖霊なる神の助けが必要なのです。

あの有名なスポルジョンという牧師は、講壇に立つ前にいつもこのような祈りをして講壇に立ったと言われています。「私は聖霊を信じる。私は聖霊を信じる。」と。そのように祈りながら講壇に立ったと言うのです。神がお用いになった人たちに共通することは、彼らは聖霊なる神の力に頼って生きたことです。問題は、皆さんがどうか？ です。あなたは聖霊に頼っているかどうか？ 「神さま、私はあなたに喜ばれる生き方をしていきたい、どうぞ、助けてください。あなたの栄光を現わしていきたいです、どうぞ、助けてください。私のことばも私の行ないもあなたに喜ばれる者になりたいです、どうぞ、助けてください。」とその祈りをもって聖霊の前に常に出ているかどうか？ 神は聖霊をあなたのために備えてくださった。あなたを助けるためにです。この方の助けを頂きながら歩んでいますか？ もしかすると、あなたの信仰生活において一番欠けているのはそこかもしれない。知識はたくさんあります。いろんな奉仕もしている。でも、聖霊なる神の助けを頂きながらその瞬間瞬間を生きるということ、そのことをもしあなたが怠っているとしたら、あなたは一番大切なものを見逃がして来たのです。

神が望んでおられる生き方とは、この聖霊の力によって生きることです。イエスもそのようにして生きたのです。そして、そのことをあなたにも主は命じておられます。聖霊に頼りながら、その力を頂きながら神の栄光を現わし続けましょう。

《考えましょう》

1. 「もうひとり」とは、どういう意味かを説明してください。
2. 「助け主」ということばの意味を説明してください。
3. あなたに「助け主」が与えられた理由を説明してください。
4. 「助け主」を与えてくださった主は、あなたがどのように生きることを望んでおられると思いますか？ あなたはどのように生きておられますか？ そのように生きていくことを決心されますか？